

サスペクト・ゼロ(SUSPECT ZERO)

2004(平成16)年12月16日鑑賞(ソニーピクチャーズ試写室)

★★★



監督・製作＝E・エリアス・マーヒッジ／出演＝アロン・エッカート／キャリア＝アン・モス／ベン・キングズレー (ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント配給／2004年アメリカ映画／99分)

……サスペクトとは容疑者のこと。そしてサスペクト・ゼロとは？ 連続殺人事件を捜査するFBI捜査官に「遠隔透視」能力を持つという元FBI捜査官が絡んで複雑な展開に……。『ついに『セブン』を超えた！ 戦慄のサスペンス・ミステリー!!』との宣伝文句だが、この手の映画の犯人探しはホントに大変！ 私にはちょっと苦手かも……？

謎の連続殺人事件発生！

この映画は、『セブン』(95年)の向こうを張るようなサスペンス・ミステリー。したがって、まずは映画の冒頭で起こる殺人事件が1つの見せ場。この映画のスタートではまず、人の良さそうなセールスマンが車の中で殺害される。そして、それに続いて次々と3件の殺人事件が……。

死体には奇妙なマークが残されていたうえ、まぶたは切りとられ、眼球はむき出しという残忍なもの。さてこれらの犯行には共通性はあるのか、それともないのか？

サスペクト・ゼロとは？

サスペクトとは容疑者のこと。そしてサスペクト・ゼロとは、「特定の犯行手口やパターンがなく、捜査線上に決して浮かび上がらない、犯罪者」と解説されている。これを読めばなるほどそういうことかとわかるが、パンフレットを読まなければ観客にはまずサスペクト・ゼロとは何のことか、それ自体がわからない

のでは……？

サスペンス・ミステリーの謎解きには、やはり一定のネタバレ提供が必要だと思うのだが……。

2人のFBI捜査官は？

この連続殺人事件を追うのは、ニューメキシコ州の片田舎のまちアルバカーキに左遷されてきたトム・マッケルウェイ（アーロン・エッカート）だが、トムは赴任早々原因不明の頭痛に悩まされていた。そしてそんなトムに対して次々と送りつけられてくるファックスには、奇妙な絵が描かれていた。一体これは何を暗示するのだろうか……？

このトムの応援のために派遣されてきたのは、元同僚の女性捜査官のフラン・クローック（キャリー＝アン・モス）。フランはワケのわからない犯人（？）たちの動きに苦悩するトムを献身的にサポートするが、このフランにもトムの苦悩そのものは見えるはずがない。

トムは孤独な捜査の中、ついにベンジャミン・オライアン（ベン・キングズレー）という何とも不可思議な動きをする元FBI捜査官にたどりつき、おぼろげながらも犯人像が浮かんできたが……。

キーワードは遠隔透視能力

この映画に登場する、ちょっと不気味な男でキーパーソンになるのがベンジャミン・オライアン。

つい最近観た『砂と霧の家』（03年）でも、愛する家族のために不動産を取得することによってトラブルに巻き込まれていくイラン人の元大佐という興味深い役柄を演じていたが、彼は今日までに各種の映画賞にノミネートされているシンヘッドの名優。

元FBI捜査官と称しているベンジャミンは、遠く離れた対象者の心情や情景を見ることができるという「遠隔透視」能力を持っていた。そんな彼は、軍事目的で始められた「イカロス計画」の経験者の1人だったのだが……。

あとはじっくりと映画を観てのお楽しみ……

以上がこの映画を鑑賞するについての必要かつ十分な情報。これ以上解説したのでは、この映画のサスペンス・ミステリーとしての価値がなくなってしまうのでここでストップ。あとはじっくりと映画を観てのお楽しみとしよう。もっとも私としては、この映画が設定したテーマが少し難しすぎるためなのか、それとも私がこの手のサスペンス・ミステリーに興味深く入っていけないためなのかはわからないが、この映画の評価はもうひとつ。さてあなたの見方は……？

三人三様の熱演だが……

キーパーソンとなるベンジャミンの渋い演技は相変わらず見ごたえがある。また、苦悩しながらやっと犯人像にたどりつき、その逮捕(?)まで行きつく主人公のトムを演ずるアロン・エッカートは、最近では『ペイチェック 消された記憶』(03年)に出演していた俳優だが、この映画ではかなりの熱演ぶりを見せている。

たしかに、大量に送りつけられてくるファックスに振り回されて頭の中が混乱し、犯人像にたどりつけそうなのにあと一步でたどりつけないもどかしさや、自分自身の頭痛や不眠と懸命に闘っている雰囲気などをよく表現した熱演といえるだろう。

さらに、『マトリックス』(99年)で人気を博したキャリア＝アン・モスも、これを側面から応援するキリリとした女性捜査官の雰囲気とうまく出した熱演ぶり。このように三人三様の熱演なのだが、全体としてはもうひとつ……？

2004(平成16)年12月16日記